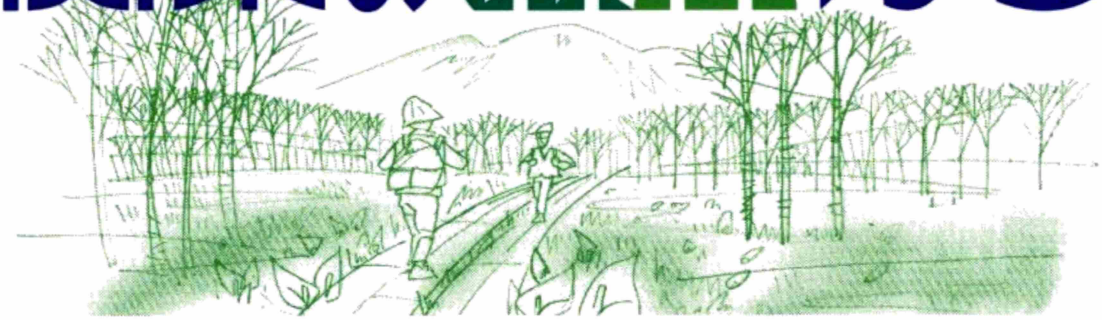
令和４年12月１日

第２２２号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町４－16－25
TEL.027－210－1158
https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

【写真】苗場スキー場から望む平標山と仙ノ倉山（中越森林管理署）

令和４年度の国有林モニター現地見学会を開催しました　企画調整課・・２

只見ユネスコエコパーク　会津森林管理署南会津支署・・３

高尾の森から　高尾森林ふれあい推進センター・・４

森づくり最前線　日光森林管理署 粕尾森林事務所 森林官 小嶋裕・・５

# 令和４年度の国有林モニター現地見学会を開催しました

企画調整課

関東森林管理局では、国有林野事業について幅広いご意見をいただき、国有林野の管理経営に役立てていくため、国有林モニター制度を設けています。国有林モニターの皆様には、広報誌や森林・林業に関する資料を毎月お送りするとともに、国有林野事業への理解をより深めてもらうため、現地見学や意見交換等を行う国有林モニター会議に参加していただいています。

今年度は、10 月 27 日に群馬県みなかみ町の国有林で現地見学会と意見交換会を開催し、24 名の国有林モニターの方々にご参加いただきました。

午前は、チェーンソーでのスギの伐倒、大型林業機械（プロセッサ）による枝払い、玉切り作業を見学していただきました。国有林モニターの皆さんは、木が倒れる様子や初めてみる林業機械に驚かれており、伐採の方法や林業機械の仕組み等についての質問がありました。

午後は、生物多様性の保全に取り組む「赤谷の森プロジェクト」について、イヌワシの狩場創出のために伐採された試験地を見学しました。残念ながらイヌワシが飛んでいる姿を見ることはできませんでしたが、なぜ狩場が必要なのか、どのような効果があるのかなどの質問があり、取組の必要性についてご理解を深めていただきました。

最後に、JR 上毛高原駅前にあるビルで、意見交換を行いました。国有林モニターの皆さんからは、「普段は入ることができない国有林の現場を見ることができ良かった」、「木材利用の現場を次は見たい」「もっと一般の方々へアピールした方が良い」などのご意見・ご要望をいただきました。

これらのご意見・ご要望は、今後の国有林野事業に活かすとともに、分かりやすい情報発信に更に努めてまいります。

ご参加していただきました国有林モニターの皆様、ありがとうございました。

# 只見ユネスコエコパーク

会津森林管理署南会津支署

福島県の最も西に位置し新潟県と接する只見町は、「自然首都・只見」とのキャッチフレーズそのものの自然豊かな豪雪地帯の町です。

今年１０月には、平成 23 年７月の豪雨で甚大な被害を受け運休していたＪＲ只見線が、11 年ぶりに再開通しました。

また、只見町には、只見川水系の豊富な水を利用したダムと水力発電所が戦前・戦後を通じて多数建設されています。東北地方のみならず関東地方や新潟県への電力供給の一端を担っています。

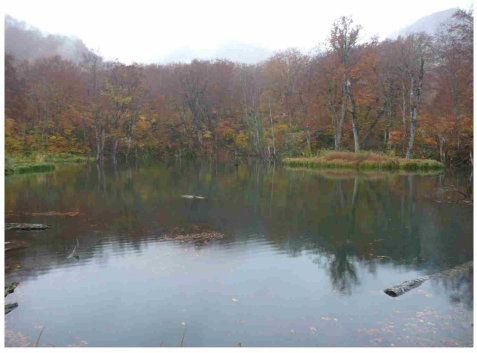
▲ 只見町の山々（浅草岳「1,585m」）

只見町の面積の約 94 %は森林であり、このうち約７割が国有林となっています。浅草岳をはじめ、会津朝日岳や要害山、日本のマッターホルンと称される蒲生岳などの山々のほか、豪雪地帯特有の世界的にも珍しいとされる雪食地形が見られます。

▲ 只見町の山々（蒲生岳「828m」）

只見町の人々は古（いにしえ）から、厳しい自然環境の中で、その自然を上手く活かしながら生活しています。このような大自然と人々の暮らしの調和・共存が図られているモデル地域として、只見町の全域（と檜枝岐村の一部）が、ユネスコにより「只見ユネスコエコパーク」に平成２６年に認定されました。

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）とは、同じユネスコが認定する世界自然遺産が「顕著な普遍的価値を有する自然を厳格に保護することを主目的」としていることに対し、「自然保護と地域の人々の生活(人間の干渉を含む生態系の保全と経済社会活動)とが両立した持続的な発展を目指す」(文部科学省 HP より)ものとされています。日本では、これまでに 10 の地域が認定されています。



▲ 沼ノ平（笹沼）

そのような只見町内の国有林に位置する沼ノ平地域は、地すべり地帯にあることから急崖、堆積地、湖沼群等の多様な地形が存在し、それ故、多くの動植物が見られます。

そこで只見町では、平成 29 年度から令和２年度にかけて沼ノ平地域の総合学術調査を実施し、この度、調査報告書が取りまとめられました。調査報告書によれば、空中写真の変遷から沼ノ平の地表面が絶えず変化していること、UAV 空撮・植生調査・動物相調査等によってブナ林を含む８タイプの植生がモザイク状に分布していること、希少な種を含む多様な動植物が存在していることが確認されたとのことです。

国有林では、森林生態系の保全・管理や希少な野生動植物の保護、多様な森林育成等、生物多様性に配慮した管理経営に取り組んでいます。会津森林管理署南会津支署としては、只見町による総合学術調査の結果も踏まえながら、この貴重で素晴らしい自然の宝庫である「自然首都」の森林を、只見町の人々と連携して適切に管理してまいります。

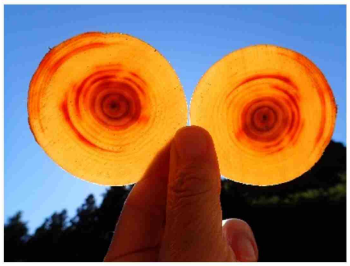
## 秋期は森林教室ラッシュ！

令和４年度は、例年になく秋期に森林教室を希望する小学校が増加しました。特に８月に入ってからは、新型コロナウイル感染症による行動制限の緩和により一気に申込みが殺到したことから、９月以降は可能な限り学校側の要請に応えて集中的に森林教室を実施しました。

森林教室では、森林学習（講義）を通じて、森林がもつ多様な機能や森林の育成をはじめ、その保護に携わる国有林職員の仕事などを紹介しています。また、高尾山国有林をベースとした森林観察では、各種樹木や下層植物の特徴などについて、見たり匂いを嗅いだりしながら森林・林業の役割などを興味深く学んでもらいます。最後は、児童全員に小径のヒノキ丸太をのこぎりで切る体験をしてもらいます。切っている最中には、児童の間で互いに応援し合い、切った丸太の匂いを嗅いで「いい匂い！」「年輪は幾つ？」など歓喜を上げながら、木材に大きな関心を寄せるクライマックスシーンとなっています。今後も、子供たちが森林・林業に関心を持って楽しみながら学ぶ姿を想像しながら準備をしてまいります。

▲ 森林教室開校式

▲ 森林観察


▲ 太陽にかざした薄切り丸太

## 高校生インターンシップの受入れ

11 月 9 日から 11 日までの３日間、東京都立八王子拓真高等学校の生徒３名（２年生）をインターンシップとして受入れ、就業体験を実施しました。就業体験は、生徒が働く人と直接接することにより、職場の知識や技術に触れることを通じて学ぶことや働くことの意義を理解するためのものです。生徒が主体的に進路の選択や意欲を培う重要な機会です。初日は、小学生を対象とした、森林教室の補助として、森林観察や丸太を切る小学生を不安ながらも優しく支えました。２日目は、高尾山の遊歩道点検により、林内に捨てられたゴミを率先して回収しました。３日目は、間伐体験や森林・林業に関する知識などを学びました。生徒からは、「間伐作業が思いのほか苦戦した」「自然の大切さを改めて実感した」「貴重な体験をし、今後の就職活動に役立てたい」「将来は、高尾森林ふれあい推進センターのようなところで仕事をしたい」などの感想がありました。短い期間ではありましたが、この就業体験を通じて我々の業務を理解してもらい、今後の学業や進路選択に役立てていただければ幸いです。

▲ 丸太切りを手伝う高校生（中央）

▲ 林内のゴミを回収

▲ 間伐作業を体験

# 森づくり最前線

日光森林管理署　粕尾森林事務所
森林官　小嶋　裕

私が勤務する粕尾森林事務所は栃木県鹿沼市の西部に位置し、足利市にある国有林と合わせて約 3,070 ha を管理しています。
粕尾地区は、昔は上都賀郡粕尾村でしたがその後変遷を経て、平成の大合併において鹿沼市に編入された歴史があります。この地区から足尾地区に抜ける道はサイクリングを楽しむ方々によく使われており、また古峰神社手前の河川にはキャンプ場があり夏場には観光客が多く訪れます。

粕尾地区はシカ・イノシシ・サルなどによる獣害に悩まされており、特に近年はシカによる獣害が多くなっています。このため鹿沼市では補助金を出して市民によるシカ柵の設置を促進しています。私はこの粕尾地区の住民として、鹿沼市で実施している民有地におけるシカ柵の設置事業にも余暇を使って積極的に参加しており、３年間で様々な場所にシカ柵の設置をしました。これは国有林においても同じで、シカ柵の設置、あるいは単木処理（袋かけなどともいわれる）は植付けなどを行う際に必ず必要なものとなっています。

▲ 地域のシカ柵設置作業を手伝う森林官

しかし、当事務所管内においては、他の事務所とは違った臨時作業員や請負業者が敬遠する事柄があり、それがシカ柵設置を含めた各種事業の障害になっています。

一つ目は、当事務所管内では「石が尖っていてパンクが起きやすい」ということです。

粕尾地区や隣接している佐野市は採石が産業の一つになっている地域で、岩が剥がれ落ちて、まるで「石器時代のナイフのような」鋭くとがった石が林道上に多く散乱しています。そのため、事業に入った請負業者から「この現場に来るとよくパンクする」「往復する間に２回もパンクした」などの愚痴を聞かされることが多く、申し訳ない気持ちになります。請負業者は、わざわざパンクしにくいタイヤを使って山に通ったりしています。

▲ パンクの原因となるとがった石

二つ目は、近年特に増えた「ヤマヒル」です。

山での虫の被害というと蜂あるいはダニなどが上げられ、ヤマヒルはたいしたことはないように思われがちです。しかし、実際に現場で作業する人間の間では、「しっかりと対策をすれば被害が回避できる可能性が高い蜂やダニ」よりも「どんなに対策しても山で作業すれば必ずやられるヤマヒル」の方が大きな被害にならないとしても嫌な存在です。下刈の請負業者などは「ヤマヒルがいる場所では、作業に集中できず安全上も不安があるため、ヤマヒルの活動が活発ではない時期に作業をしたい」と訴えてきて、契約期限のギリギリに下刈作業に入る状態です。

また、臨時作業職員も、どうしても藪の中を進むことになる境界予備調査などは、「ヤマヒルに噛まれることがとても多く、ヤマヒルが出なくなった時期に作業したい」と強く要望しています。

当森林事務所では、一つ目の「石が尖っていてパンクが起きやすい」については、「極力落石と思われるものは拾って路上からどかす」「重量の重い車ではなく軽い車で現場に行く」などの対策を試してはいますが、成果は余り出ていません。

二つ目の「ヤマヒル」については、基本的な対策以外ないのが現状です。私自身、一般

的にヤマヒル対策のチラシなどにある「極力肌を露出させない」「ヤマヒルよけスプレーなどを入念に使う」「ヤマヒルのいる場所に極力近づかない」などを実行しようとしました。しかしながら、「極力肌を露出させない」は、服や手袋の上からでも噛んだり、動いたときに出るわずかな隙間に入ってきたりするため効果がありません。「ヤマヒルよけスプレーなどを入念に使う」は、草の露などで濡れると効果が薄れ、上から落ちてきたり隙間から飛び込んできたりすることには効果があまりありません。「ヤマヒルのいる場所に極力近づかない」は、そもそもそんなことでは仕事にならないので実行できません。どれも効果が薄い、あるいは実行できないものでした。

他にも林業からは外れますが、ヤマヒルが出るというだけで登山客が来なくなる、釣り客が減る、住宅地近くでヒルが出るような場所では子供を外で遊ばせられないなど、何らかのヤマヒル駆除を考えるべきと思います。

なんとか蜂の誘引剤のような装置ができてくれないものかと考えている毎日です。

粕尾森林事務所の今後の課題は、こうした現場に入りたくないような状況の改善だと思っています。そのためにも、本稿で記述した対策以外にも何か良い案はないか日々考えています。

▲ヤマヒル

## 今月の表紙

### 苗場スキー場から望む平標山と仙ノ倉山

中越森林管理署

平標山（１９８４ｍ）は、新潟県南魚沼郡湯沢町と群馬県利根郡みなかみ町にまたがる山で、「花の百名山」の１つにも選ばれています。比較的容易に山頂まで登れ、高山の雰囲気を味わえる大変人気の山です。

谷川連峰西端の山であり、東に接する仙ノ倉山（２０２６ｍ）へ続く稜線には、ハイマツやシャクナゲなどの緑の中にハクサンイチゲやハクサンコザクラなどの花が咲き誇り、山上の楽園を形成しています。

ハクサンイチゲ ▶

◀ハクサンコザクラ


発行所：関東森林管理局　編集：総務課　☎(027) 210 - 1158　FAX (027) 230 - 1393